

寺とも落語会



去る10月6日(日)の午後1時半～徳成寺において、寺とも落語会が開催されました。暑さが少し残る陽気でしたが、ご覧の皆さんが陽気に演じて下さいました。おかげ様で年々、楽しみにして下さいの方が増えて来ている印象がします。

この日も、お馴染みの皆さんや、初めての皆さん、そして高松市だけでなく市外からもご参加頂きました。演者の皆さんの発信している落語の楽しさが着実に浸透している気がします。

トップバッターの耕亭耕ん喜(たがやしていこうんき)さんです。枕に、江戸時代の花魁(おいらん)が何故おいらんと呼ばれるのか?と言った枕を用意してくれました。

人をばかす狸に尻尾があるが、花魁は尻尾無しで人をばかすので「尾いらん」。そこから「おいらん」と呼ばれたのだとか。落語は、花魁の人情噺かと思いきや、狸をサイコロに化けさせて博打に挑む男の噺「狸賽(たぬさい)」でした。今も昔もずるいこと考える阿呆はいたようです。



次に登場したのは、どんぐり亭ぽりすさんです。「神通力」という笑福亭福笑さんの創作落語です。何でも望みを一つだけ叶えてやるという神様に、大金持ちになりたい願いを叶えてもらう男の噺です。ぽりすさんの演じる姿の大きいことと言ったらありません。

落語の合間にお三味線で俗曲をお楽しみ頂きました。今回初登場の「ゆうとゆい」のお二人です。秋の七草が歌詞になった曲や奥さんが帰って来て、男が浮気相手を猫じゃ猫じゃと言って逃がす曲などユーモアたっぷりでした。手遊びも交えて下さいました。



トリを務めるのは、香川におけるアマチュア落語の第一人者酔亭藪太郎さんです。枕で教えてくれたのは、江戸時代一両を現在のお金に換算した金額です。一両は、8万円～10万円ほどで、千両箱は一つにつき8千万円～1億円だそうです。演目は、大阪で指折りの大富豪の噺「葎の火(たばこのひ)」でした。大富豪から法外な報酬をもらったお茶屋の番頭さんが再び大盤振る舞いにあやかろうと奮闘する様が描かれていました。お三味線と太鼓のBGMも息ピッタリでしたね。

